当たり前だと思うな

座間味村立慶留間小学校六年　長澤　知穂

ふかふかな布団で目を覚まし
温かいご飯を食べ学校へ行く
よく遊びよく学び友達と笑い合う
大好きな図書館に寄り読みたい本を読む
休日には家族とケラマブルーの海を楽しみ
幼い妹たちは好きな時に笑い好きな時に泣き元気いっぱい走り回る
当たり前だと思うな
硬く暗いガマの中で目を覚まし
腹をすかせていつ落ちるか分からない爆弾の音におびえる
学ぶ場所を奪われ楽しみを奪われ笑い合った友達はどこにいるのだろうか
しゃべり慣れた言葉を禁止され
読みたい本なども読めず
ケラマブルーの海はあっという間に艦隊で黒くそまり
幼い妹はうるさいと殺されてしまった
当たり前だと思うな
あなたの思う当たり前は一瞬のうちに消えさってしまう
当たり前だと思うな
あなたの立っているその場所には七十六年前の血が流れている
想像する事しかできないこの悲劇は七十六年前の当たり前だったのだ
私は今十一才
みんなの思うそれぞれの幸せのために何が出来るのだろう
なぜおじぃおばぁはつらい記憶を私達に話してくれるのだろう
なぜ毎年六月にこの小さな島中が祈りを捧げるのだろう
当たり前だと思うな
想像しか出来ないから過去から学ぶんだ
想像しか出来ないけれど心をこめて人の痛みを分かち合うんだ
よく笑い希望を持ち他人への思いやりを忘れるな
未来を生きる私達の当たり前のために